



令和5年8月2日（水）

# 地域支援センター さくらぎセミナー

テーマ 愛着障害を抱える子どもたちを支えるチーム作り  
～レジリエンスを高めるために～

## 講演の紹介

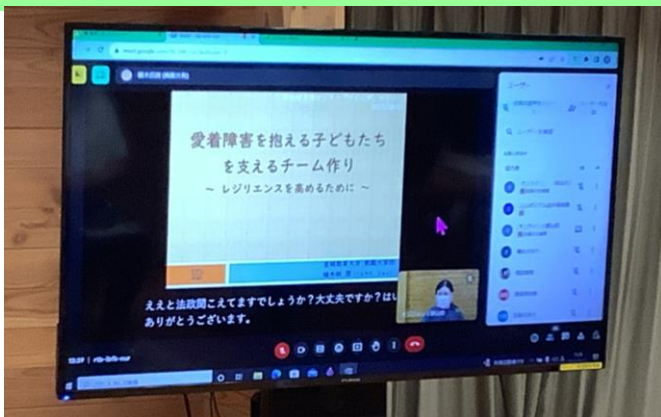
テーマから「愛着の問題」の理解と、その支援の方法として主体的に生きる力を育むために「レジリエンスを高める」という講演内容でお話をいただきました。

初めにアタッチメント(愛着)とは何か、動画を基に養育者の態度と4つのアタッチメント・スタイルについて子どもの様子の説明がありました。愛着の形成がうまくいかない子どもに対しては、ネガティブな情緒を一旦引き受けて整えることができる「利用できる大人＝安全基地」が必要であることを学ぶことができました。

次に、具体的な事例を伺いながら、学校における支援や配慮のポイントについて伺いました。特に通常学校においては、学級での「集団での学び」と通級指導等を活用した「個別での学び」をバランスよく組み合わせ、学校全体で支援に取り組むことが重要であることを、学校の現状や先生方の陥りやすい心理状態も踏まえつつ教えていただきました。

最後に、「レジリエンスを身に付けるための10の方法」を通して、レジリエンスを高める支援の方法を伺いました。愛着障害を抱える子どもたちには、「情緒的な安定を基盤とした『自分づくり』を支えていき、レジリエンスを高めることで自分の人生の主人公となるよう支援すること」が重要であることを知ることができました。

植木田先生、ありがとうございました。



－参加者の感想より（一部抜粋）

- ・愛着障害について、自分で納得できるまで何度も何度も聴いて 確認する必要があると思いました。植木田先生のお話は、とても分かりやすく 児童生徒の姿を思い浮かべながら拝聴しました。今やっていることの答えが 5年後10年後20年後に表れるというお話が心に残りました。
- ・教職員のメンタルについては、これまであまり触れたことがない内容で非常に参考になりました。よい面を伸ばすイメージをすべての場面で持てればと同僚と話し合ったところでした。
- ・愛着については奥が深く、世代間連鎖するため、本人だけでなく家族まとめたケアが必要である点や、対応する職員の大変さ・エネルギー消耗等、専門家を交えたチームで役割分担をし、長期的に支援していくことが大切である点がよくわかりました。

ご参加いただき、  
ありがとう  
ございました。

